

11月22日は、「いい夫婦の日」と語呂合わせされています。「いい夫婦」で思い出すのは夫の次兄夫婦です。兄は国鉄本社で調査、開発の仕事をしていて、ずっと東京勤務でしたので、私たちが東京に住んでいた時には、荻窪や、池袋の官舎に遊びに行つては、兄夫婦の仲良しぶりを拝見したものです。会うたびに、兄嫁が連発する、「寛俊さん、寛俊さん」というとても甘い声に、目ではなく、耳を見張った記憶があります。また、息子たちが生まれた後は、「パパ、パパ」という呼びかけに変わりましたが、実に仲のいい、素敵なお二人でした。定年後は、郷里に近い福岡に住み、いろいろな資格を次々取得し、勉強好きな面はいつまでも抜けませんでした。兄はよく電話をかけて来て、安否を尋ねてくれました。2月12日に81歳で逝去されました。寂しくなっていました。



兄は若い時からあまり健康に自信がなかったようです。けれども仕事は激務でしたから、健康にはとても気を配り、何事も穏やかに、焦らず、対処するようでした。それが兄の性格になっていった気がします。夫は時々囲碁の勝負を挑みました。兄は「ハア～、ウ～」と長考が続きます。強くてなかなか勝てませんでした。私の夫は、「短気、せっかち」ですから、この兄と電話で話す時も、結論を求めて、「お姉さんと代わって！」とよく言っていたものです。兄は自分のペースを守る生活ぶりで、体力を持ちこたえ、男性の平均寿命以上に生きられたのでしょう。

もちろん、妻の優しさ、見事な世話女房ぶりがあればこそ、でしょう。九州出身の兄嫁は、実によく夫を立てるのです。感心したものです。もっとも兄嫁は「もう～、じれったい！」と何度もよく言っていましたけれども。去年の10月に兄から手紙をもらいました。

前略。私は最近歳のせいか、病のせいかわかりませんが、物事を的確に理解したり、分析したりする能力が極端に低下したというか、なくなって来ました。もともとないのかもしれませんが、関心が無くなったわけではありませんが、私にはもう何の力などなく、すべてを次の世代、若い世代の人たちに任せて頑張つて欲しいという願いであります。無責任な言い方かもしれませんが、私の心境というか、心の願いであります。ご批判願いたいと存じます。暇なときに電話で、雑談調で結構です。話をしたいと思います。

「週刊金曜日」記載の文面、拝読させていただきました。感想があればなんでも言って下さいとのことですので、的外れのことかと思いますが、一言申し上げます。

イスラム、アメリカの問題解決は「共生する世界像の構築」であるというのが趣旨であると言っているものと思われます。その通りだと思われます。しかしながら、最も困難なことではないかと思われます。困難な道であろうとも、それに向かって進むのが、人類の課題であるということであろうかと考えます。ひるがえって私共日本はアジアの問題として近隣諸国、とりわけ中国、韓国、北朝鮮との間で諸問題を抱えていざこざが絶えません。

領土問題、資源の問題、核開発の問題等々にいろいろと問題をかかえております。これからも「共生する世界像の構築」の考えを推し進めて行くことが紛争解決の大前提になるものと考えています。智恵をしばって一日も早く平穏な国際社会になってほしいものと願っています。これから寒い季節になります。身体に気をつけて日々の生活を送って下さい。 寛俊拝

夫の書いたものに目を通して、共感し、励ましてくれました。夫は何度か兄と電話で話し、最期の頃には福岡の家に見舞いました。兄はこの手紙の後4か月で旅立ちました。真面目で、優しい兄です。弟のために、このように、懇切丁寧な手紙を送ってくれましたが、今にしてみれば、あたかも遺言かのように。兄の平穏な世界を願う切なる気持ち、私たちにヒシヒシと伝わってきます。